

ヘブル人への手紙 1 章 1-4 節 イエスは、はるかにすぐれたみことば

本朝はヘブル人への手紙の学びを始めます。先週お話ししたように、この書全体に流れるテーマはイエス様ははるかに優れているということです。そして、この書ではほぼ段落が変わるごとに、イエス様がより優れている新たな側面が示されています。ヘブル書の著者は不明であることを思い出してください。他の書簡が著者紹介から始まるのに対し、この手紙はすぐに本題に入ります。本朝は最初の 4 節、ヘブル書 1 章 1-4 節から始めます。冒頭でイエス様はより優れた御言葉であることが示されています。私たちは互いに自己を明らかにするため、常に言葉を用います。神は人間ではありませんが、聖書は神の御業を人間の言葉で描写し、私たちが神の本質を理解しやすくしています。それゆえ聖書は神が語られることについても語り、今日の箇所ではまさにその点を見ることとなります。そしてイエス様は、神が私たちに語られたより優れた、まさに最高の御言葉なのです。始めにこの箇所を読みましょう。

ヘブル人への手紙 1 章 1~4 節 神は昔、預言者たちによって、多くの部分に分け、多くの方法で先祖たちに語られました。2 この終わりの時には、御子にあって私たちに語られました。神は御子を万物の相続者と定め、御子によって世界を造られました。3 御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。御子は罪のきよめを成し遂げ、いと高き所で、大なる方の右の座に着かれました。4 御子が受け継いだ御名は、御使いたちの名よりもすばらしく、それだけ御使いよりもすぐれた方となりました。 神が語られるという事実こそが、この箇所の出発点です。1 節は、**神は昔、預言者たちによって、多くの部分に分け、多くの方法で先祖たちに語られました。**と神が御自らを私たちに啓示するために語られるという驚くべき真理から始まります。この 4 節にわたるギリシャ語の詩的表現は全体を通して美しいですが、特に最初の行は預言者や預言するを意味する、プロフェテイス、など、ほとんどの語に 'p' 音が繰り返されることで圧倒的な響きを放っています。文法構造や語彙の選択に至るまで、ヘブル人への手紙はイエス・キリストこそが、過去のいかなる啓示よりも完全な神御自身の現れであることを明確に示しています。そして神が語られるという事実そのものが、まさに驚くべきことなのです。

これは事実であり、最高の言葉、すなわち神御自身の栄光を指し示す最も輝かしい言葉に値する思索です。結局のところ、なぜ神は御自身を私たちに啓示されるのでしょうか？あらゆる面で、私たちは神を拒み、その御心に背いてきました。人類と諸国民が預言者を必要とした理由は、私たちが罪から立ち返らせるためでした。そして聖書は、私たちすべてが罪人であることを明らかにしています。**ローマ人への手紙 3 章 23 節 すべてのは罪を犯して、神の栄光を受けることができず、**

私たちは神に語りかけていただく必要がありました。なぜなら聖書はこう告げているからです。**ローマ人への手紙 3 章 10~11 節 次のように書いてあるとおりです。義人はいない。一人もない。11 悟る者はいない。神を求める者(さえ)はいない。**ですから、神がアダムやノア、アブラハム、モーセのように、たとえ不完全ながらも神に従った少数の人間と直接交わした対話から遠ざかるほど、神は罪深いイスラエルを御自身のもとに呼び戻そうとする預言者を遣わされました。それはイスラエルだけではなく、アッシリア帝国の首都ニネベでさえ、ぱっとしない預言者ヨナを通して神から悔い改めのメッセージを受け取ったのです。神は様々な男性と女性を預言者として選び、多様な方法で神のメッセージを伝えさせました。旧約聖書にはそれらの預言者たちが語った言葉の一部が記録されていますが、ホセアが不貞な娼婦と結婚し、妻を贖うことで神が民をいかに深く愛しているかを示すといった行為も記されています。

預言者エゼキエルは 390 日間左側に伏せてイスラエルの罪の 390 年を示し、40 日間右側に伏せてユダの罪の 40 年を示しました。旧約聖書全体に見られる神の御言葉の偉大な現れですが、これから来るものはさらに素晴らしいのです！**2 この終わりの時には、御子にあって私たちに語られました。**これがより良い言葉です！歴史はイエス・キリスト以前と、イエス・キリスト以後に分けられます。それは、イエス様以前の神が人々に語りかけ関わる方法と、イエス様以後の神が他者と関わる方法によって分けられるのです。イエス様以後のすべてが**終わりの時**と呼ばれる事実は、これが歴史のすべてが向かってきた頂点の出来事であることを示しています。イエス様は歴史の焦点であり、神が私たちの世界のために定めた時間軸の焦点です。神の御子は最終的かつ

最高の言葉なのです。今一度 2-3 節を見てください。 **2 この終わりの時には、御子にあって私たちに語られました。神は御子を万物の相続者と定め、御子によって世界を造られました。3 御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり、その力あるみことばによって万物を保っております。**これらの聖句において、神はヘブル人への手紙の筆者を介して、御子なる神が最終的かつ最上の神の言葉である二つの理由を私たちに示しておられます。そして、ここ冒頭ではイエス様の御名が用いられていないものの、筆者がイエス様を神の御言葉として位置づけていることを確信できます。これはヨハネによる福音書 1 章でイエス様が呼ばれている呼称です。章が進むにつれ、私たちは生ける神の御言葉として紹介され、やがてイエス様と特定されるお方に出会うのです。 **ヨハネの福音書 1 章 1~5 節 初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。2 この方は、初めに神とともにおられた。3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。4 この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。5 光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。**

14 節に進みます。 **14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。**そして言葉とひとり子がイエス様であることが 16-18 節で明かされます。 **16 私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けた。17 律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。18 いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。**

預言者たちが神の御言葉を人々に語ったように、イエス様は生ける神の御言葉として地上に来られ、神が創造された人々に神を現わされました。しかし、生ける神の御言葉としてのイエス様は、預言者たちの語った言葉とは一線を画すものです。預言者たちの言葉は有限でした。その範囲は限られ、不完全な声によって伝えられました。多くの場合、特定の時代や状況に限定され、何世紀にもわたって断続的に現れました。しかしイエス様において、神は永遠に続く時に向けて、一度限りで語られたのです。この御言葉、すなわちこの説教の重要性は、これらの節においてイエス様が呼ばれている、あるいは暗示されている二つの異なる称号、相続者と王、に見出されます。この二つの称号は、3 節の冒頭でこれら二つの称号の間に示されるイエスの真の本性によってのみ可能となるものです。これらの称号、そしてより重要なのは、それらがなぜイエス様に正確に適用できるのかを見ていきましょう。まず 2 節にある最初の称号、相続者について考えてみましょう。

2 この終わりの時には、御子にあって私たちに語られました。神は御子を万物の相続者と定め、御子によって世界を造られました。

相続者であるということは、ほとんどの場合、家族関係が関わっていることを意味します。ですから、神の御子として認められているイエス様は、神が所有し支配権を主張するすべてのものの相続者であると主張することができます。しかし、イエス・キリストを知る私たちもまた、神の子と呼ばれるのです。 **エペソ人への手紙 1 章 5 節 神は、みこころの良しとするところにしたがって、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられました。**

以前にも述べた通り、ここに息子と娘と書かれていないのは、相続権が息子だけに認められていたためです。ですから、私たち全員が息子として養子にされたことで、男女を問わず、息子も娘も共に、神の子供としての相続を平等に分ち合うのです。では、イエス・キリストの息子としての地位には、どのような決定的な違いがあるのでしょうか。その違いは、2 節の終わりに記されていることから見えてきます。 **御子によって世界を造られました。**これもヨハネによる福音書 1 章への繋がりであり、そこではイエス様が神の命ある御言葉であると示されています。すでにイエス様が創造主であると語られていたからです。ヨハネによる福音書 1 章 3 節を思い出してください。 **すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。** イエス・キリストを知るあなたと私は神の息子、娘です。しかしそれは生まれながらのものではありません。私たちは養子にされたのです。イエス様は永遠から存在

する、神の御子です。創造の時にただおられただけでなく、創造主そのものでした。このことが、相続者と王という二つの役割を同時に成立させる中間的な立場へと自然に導きます。3節の冒頭で、生ける神の御言葉であるイエス様が、いかなる言葉よりも優れた形で相続者であり王である根拠が示されています。3節はこう始まります。**3 御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。**

ヨハネによる福音書1章で既に見ましたが、これらの言葉はヨハネ1章1節が宣言した**言は神と共にあった。言は神であった…**という事実を裏付けています。この一節だけでも、ここに記された内容を真摯に考察しようとする者なら誰にでも、イエス様が完全なる神であることを明らかにしています。それは三つの独立した宣言によって示されています。一つ目、**御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れである。**宇宙にあって、神御自身を除いて、神の栄光を完全に分かち合うことのできる者も、何もかも存在しません。イザヤ書42章8節で神はこう言われます。**8 わたしは主、これがわたしの名。わたしは、わたしの栄光をほかの者に、わたしの栄誉を、刻んだ像どもに与えはしない。**

誰かが自らについて**神の栄光の輝き**であると主張したり、誰かをそう呼んだりする場合、主張するまたは呼ばれる者自身が神であることを意味します。なぜなら神は御自らの栄光を他者に与えないからです。しかし私たちがイエス様を見ると、私たちは一人の人間を見ています。ただの人ではなく、神御自身の完全な栄光を纏った人です。それだけでなく、神の栄光だけでなく、二つ目として、イエス様は**神の本質の完全な現れ**も備えています。

人の本質は、人間の言葉で言えばDNAのようなものと考えられます。まったく同じDNAを持つ人は二人といません。一卵性双生児でさえほぼ同じですが、完全に同一ではありません。神は人間ではないため、こうした人間の尺度で神を考えることはできません。しかしイエス様が持つこの神の特質は、神の特質と完全に同一です。つまり神の御子は神そのものであるということです。これが、私たちが神の性質を三位一体、すなわち父、子、聖霊という三つの異なる人格でありながら、一つの本質、一つの神の性質を共有する存在と定義する理由です。

ここでイエスに現れる神の第三の側面は、**その力あるみことばによって万物を保っておられる**ことです。これは神の主権であり、この世のあらゆるものを支配する神の摂理です。聖書は、神の支配が宇宙と世界と私たちの創造において、また私たちが善と呼ぶものと悪と見なすものの両方に及ぶことを明確に示しています。この真理が示されている箇所の一つ、エペソ人への手紙1章を見てみましょう。

エペソ人への手紙1章11節 またキリストにあって、私たちは御国を受け継ぐ者となりました。すべてをみこころによる計画のままに行う方の目的にしたがい、あらかじめそのように定められていたのです

この世の悪でさえ、究極的には主権者なる神の支配下にあり、神はご自身の目的に従って万事を働かせておられます。そしてヘブル人への手紙によれば、イエスこそがその神なのです。神であるイエス様は、相続者であり王でもあります。これが3節の終わりが指し示すところです。**御子は罪のきよめを成し遂げ、いと高き所で、大いなる方の右の座に着かれました。**これがイエス様の正当かつ最終的な行き先、すなわち宇宙の王座です。神の栄光の輝きであり、神の本質の完全な現れであり、御力のことばによって宇宙を支える主権者である方が、自ら創造した宇宙の王座において、父なる神と共に正当な座に着かれたのです。しかし、三位一体の第二位格である神の御子が、ご自身の働きを終えて御座に着かれる前に成し遂げられた最後の業がありました。それは罪の清めを成し遂げる御業でした。なぜ罪の清めこそが特に御子の業であったのか。それはこのイエス様、すなわち神の御子が、完全なる神でありながら完全なる人間でもあったからです。御子御自身には償うべき罪がなかったからこそ、他の人間の罪を自ら負い、その罪の罰を背負うことのできる唯一の完全なる義人であったのです。彼が完全に罪のない存在であり得た唯一の理由は、同時に完全なる神でもあったからです。神は目的を成し遂げた後、死者の中からよみがえり、正当な御座に戻り、御業を成し遂げた者として着座することができたのです。思い起こしてください。私は冒頭近くでイエスが歴史を分かちと述べました。イエス様以前とイエス様以後があるのです。真に歴史を分かちのはイエス様の死と復活です。それは2000年にわたる預言、犠牲、警告と約束の言葉の焦点であったのです。そして今からキリストが再臨するまでの間

に起こるすべてのことは、2000年前にあの十字架で既に成し遂げられた救いを振り返っているです。神がこの世を終わらせ、罪を完全に滅ぼし、御民を贖うために残されたことは何もありません。イエス様は十字架の上で最終的な御言葉を語られました。イエス様が墓からよみがえられた時、サタンは打ち負かされました。アダムからアブラハム、モーセ、そして旧約聖書のすべての聖徒に至るまで、すべての人の信仰の対象が今や完全に明らかにされたのです。そして今日、私たちがイエス・キリストを信じて信仰する時、ローマ人への手紙 8 章 17 節が言うように私たちは**キリストとともに共同相続人**となるのです。そして、テモテへの手紙 第二 2 章 12 節 **キリストとともに王となる**。のです。これはイエス様が相続者であり王であることと同じでしょうか。いいえ。しかし、より優れた神の御言葉であるキリストにおいて、私たちは神の御子イエス・キリストなしには不可能な方法で神を知るようになります。そしてイエス・キリストを通して神を知る道は、私たちの罪が清められ、赦されることです。ローマ人への手紙 3 章 22 節は、この赦し、この清さ、**すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別はありません。**と教えています。しかし人々は常に様々な場所に救いを求めています。ですからヘブル書の著者は、この最初の序文が 4 節で終わるにあたり、イエス様が御使いたちよりも優れている点の数々を私たちに示すことによりやく着手したところです。御子が受け継いだ御名は、御使いたちの名よりもすばらしく、それだけ御使よりもすぐれた方となられました。イエス様が御使いたちよりも優れている点については数週間後に考察しますが、イエス様の御名が御使いたちよりもはるかに優れている理由は、彼が創造されない神の御子であり、ご自身が創造された宇宙の相続者であり、ご自身が贖うために死なれた被造物たちを治め、支配しておられるお方だからです。**使徒の働き 4 章 12 節は言っています。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。**

毎日何千もの言語で何百万もの言葉が語られますが、私たちの罪から清めてくださる生ける神の御言葉はただ一つです。私たちはその御言葉に耳を傾けているのでしょうか。その御言葉を信頼しているのでしょうか。その御言葉に従っているのでしょうか。その御言葉の名はより尊いのです。なぜならその御言葉こそが最も尊く、その名はイエスだからです。私たちが神のもとへ回復されるために、イエス様は御自身の命を献げられました。私たちはこの犠牲を、主の晩餐と呼ばれるこの食事を通して記念しています。そこでは、自ら進んで砕かれた御体を表すパンと、私たちの救いのために自ら進んで流された血を表す杯に与ります。もしあなたが、罪を悔い改め、キリストを信じ、そして従順にバプテスマを受けたキリストの弟子であるなら、今日この食事に共に参加するようお招きします。YIBC の教会員でない方々のご参加も歓迎しますが、この食事は私たちが教会員として参加すべき地元のキリストの体（教会）との結びつきを象徴しています。保護者の方々へ：お子様にこの食事の重要性を示す最善の方法は、準備が整うまで参加を控えることです。私の祈りの後、執事たちが聖堂の四隅からパンと杯を配り、私たちは共にパンと杯を分かち合います。祈りましょう

Hebrews 1:1-4 Jesus is the Better Word イエスは、はるかにすぐれたみことば

Today, we will begin to dig into this book of Hebrews. As I mentioned last week, the theme that flows through this book is that Jesus is better. And with nearly every paragraph change in the book, we see a different way that Jesus is better. Remember, we don't know the writer of Hebrews, so when other books start with an introduction to the author, this letter jumps right to the point. Today, we will start with the first four verses, Hebrews 1:1-4, where we see right at the beginning that **Jesus is the better Word**. We use words all the time in order to reveal more of ourselves to each other. While God is not human, the Bible uses human language to describe his actions so that we can better understand who God is. And so the Bible talks about God speaking as well, and that is what we will see in this passage today. And Jesus is the better, really the best Word that God has spoken to us. Let's read this passage as we begin. **1 Long ago, at many times and in many ways, God spoke to our fathers by the prophets, ²but in these last days he has spoken to us by his Son, whom he appointed the heir of all things, through whom also he created the world. ³He is the radiance of the glory of God and the exact imprint of his nature, and he upholds the universe by the word of his power. After making purification for sins, he sat down at the right hand of the Majesty on high, ⁴having become as much superior to angels as the name he has inherited is more excellent than theirs.**

The fact that God speaks at all is where this passage begins. Verse 1 begins with the amazing truth that **God speaks to reveal himself to us. 1 Long ago, at many times and in many ways, God spoke to our fathers by the prophets...** The poetry in these verses is beautiful in Greek throughout these 4 verses, but the first line here is particularly stunning with the repeated sounds of "p" like prophet or "propheteis" used in most of these words. Even in the grammar that is used and the words that are chosen, the book of Hebrews is making it clear that Jesus Christ is a more perfect revelation of God himself than anything that came before. And the fact that God speaks is absolutely incredible. It is a fact and a thought deserving of the highest of language, the most glorious language that points to the glory of God himself. After all, why should God reveal himself to us? In every way, we have rejected him and rebelled against his will. The reason humanity and nations needed the prophets was to call us to turn back from our sins. And the Bible makes clear that all of us are sinners. **Romans 3:23 says, for all have sinned and fall short of the glory of God.** We needed God to speak to us, because the Bible tells us that **"None is righteous, no, not one; 11 no one understands; no one [EVEN] seeks for God..." Romans 3:10-11.** So, the further we get away from the direct conversations that God had with the few humans who followed him, even imperfectly, like Adam, Noah, Abraham and Moses, God sends prophets who try to call sinful Israel back to himself. And it wasn't just Israel, but even the capital of the Assyrian empire, Ninevah, received a message from God to repent through the unimpressive prophet, Jonah. God chose many different men and women as prophets who gave messages from God in lots of different ways. The Old Testament records some of the many words that were spoken by those prophets, but we also see them do things like Hosea marrying an unfaithful prostitute in order to show how much God loved his people when he redeems his wife. There was the prophet Ezekiel who laid on his left side for 390 days to show the 390 years of Israel's sin and 40 days on his right to show the 40 years of sin of Judah. As great a demonstration of God speaking that we see all throughout the Old Testament, what is coming after is better!

² but in these last days he has spoken to us by his Son... This is the better word! History is divided by the time before Jesus Christ, and the time after Jesus Christ. It is divided by how God spoke and related to people before Jesus and how he relates to others after Jesus. The fact that everything that comes after Jesus is called **the last days** shows us that this is culminating event that everything in history was leading to. Jesus is the focal point of history and the focal point of God's timeline for our world. **The Son of God is the final and best word.** Look again at verses 2-3. ² but in these last days he has spoken to us by his Son, whom he appointed the heir of all things, through whom also he created the world. ³ He is the radiance of the glory of God and the exact imprint of his nature, and he upholds the universe by the word of his power. In these verses God gives us through the writer of Hebrews two reasons why God the Son is the final and best Word of God. And while here at the very beginning, the name of Jesus is not used, we can be certain that the writer has in mind the designation of Jesus as the Word of God. This is what Jesus is called in John 1. As the chapter unfolds, we are introduced to the living Word of God who is then identified as Jesus. John 1:1-5 says, **1 In the beginning was the Word, and the Word was with God, and the Word was God. 2 He was in the beginning with God. 3 All things were made through him, and without him was not any thing made that was made. 4 In him was life, and the life was the light of men. 5 The light shines in the darkness, and the darkness has not overcome it.** Then drop down to verse 14. **14 And the Word became flesh and dwelt among us, and we have seen his glory, glory as of the only Son from the Father, full of grace and truth.** Finally the Word's and the Son's identity as Jesus is revealed in verses 16-18. **16 For from his fullness we have all received, grace upon grace. 17 For the law was given through Moses; grace and truth came through Jesus Christ. 18 No one has ever seen God; God the only Son, who is at the Father's side, he has made him known.** Just as the prophets spoke the Word of God to the people, Jesus came to earth as the living Word of God to reveal God to the people that God had created. But Jesus as the living Word of God is unique to the words spoken by the prophets. The prophets words were finite. They were limited in scope, and carried by imperfect voices. They were specific in many cases to a particular time and circumstance and came sporadically over centuries. But in Jesus, God has spoken once for all for the rest of time. The significance of this speech, this Word, is seen in the two different titles that Jesus is called or inferred to have in these verses – heir and king. Both of these are only possible because of his true nature which is seen at the beginning of verse 3 between these two titles. Let's look at these titles and more importantly, why they accurately can be applied to Jesus.

Let's think about this first title, heir, in verse 2. ² but in these last days he has spoken to us by his Son, whom he appointed the heir of all things, through whom also he created the world. To be an heir almost always means that there is a family relationship involved. So, we have Jesus who is identified as a Son to God who can claim to be an heir to everything that God owns and claims dominion over. But for those of us who know Jesus Christ, we also are called sons of God. **Ephesians 1:5 says, 5 he predestined us for adoption to himself as sons through Jesus Christ, according to the purpose of his will...** I have mentioned it before, but the reason it doesn't say sons and daughters here is because only sons had the right to inheritance, so by all of us being adopted as sons, men and women, sons and daughters together, we equally share the inheritance of being a child of God. So what is significantly different about the sonship of Jesus Christ? We begin to see that difference in what the end of verse 2 says, **through whom also he created the world.** This is also the connection back to John 1 where we see that Jesus is

the living Word of God, as it already told us that Jesus was the Creator. Remember back to [John 1:3](#), [3 All things were made through him, and without him was not any thing made that was made.](#) You and I if we know Jesus Christ are sons and daughters of God, but we are not that from natural birth. We are adopted. Jesus is naturally from eternity, the Son of God. He was not only present at creation, he was the creator. This naturally leads into that middle section between heir and king that makes both of those roles exist.

As verse three begins, we see the basis for Jesus, the living Word of God, being both heir and king, and better than any words that came before. Verse 3 begins, ³ [He is the radiance of the glory of God and the exact imprint of his nature, and he upholds the universe by the word of his power.](#) We already saw this in John 1, but these words are affirming what [John 1:1](#) declared that the [“Word was with God, and the Word was God...”](#) This verse alone makes it clear to anyone willing to really examine what is said here that Jesus is fully God. It does so with 3 separate statements. One...[he is the radiance of the glory of God.](#) There is no one and nothing in the universe that can share fully in the glory of God apart from God himself. In [Isaiah 42:8](#) [God says, I am the Lord; that is my name; my glory I give to no other, nor my praise to carved idols.](#) For anyone to claim or have claimed about them that they [ARE the radiance of the glory of God,](#) means that they themselves must be God, since God does not give his glory to anyone else. But when we look at Jesus, we are looking at a man, but not just any man, a man who bears the full glory of God himself. But not just his glory, TWO, he also has his nature, in fact, [the exact imprint of his nature.](#) You can think of a person's nature as being in human terms, DNA. No two people share the exact same DNA, even in identical twins it is nearly the same, but not exactly. And God is not human, so we cannot think of him in these human terms, but this God nature that Jesus has is exactly the same as the nature of God, which means that the Son of God is God himself. It's why we define the nature of God as being a Trinity, Father, Son and Spirit who are three distinct persons who share the one essence, one nature of God. There is yet a THIRD aspect of God here that we see in Jesus, [he upholds the universe by the word of his power.](#) This is God's sovereignty and his Providence over everything in this world. The Bible is clear that God's control extends over everything in the world, both in the creation of the universe, the world, and us; in both the things that we call good AND those things we consider bad. Look at Ephesians 1 which is just one place we see this truth. [Ephesians 1:11](#) says, ¹¹ [In him we have obtained an inheritance, having been predestined according to the purpose of him who works all things according to the counsel of his will...](#) Even the evil in this world is ultimately under the control of a sovereign God who is working all things according to his purposes. And according to Hebrews, Jesus is that God.

Being God, Jesus is both heir and king. That is where the end of verse 3 lands at. ...[After making purification for sins, he sat down at the right hand of the Majesty on high...](#) This is Jesus's rightful and final destination, on the throne of the universe. The one who is the radiance of God's glory, the one who is the the exact imprint of God's nature, the Sovereign one who upholds the universe by the word of his power took his rightful seat with God the Father on the throne of the universe he himself created. But it was only after doing one final thing that only the second person of the Trinity, God the Son could do before he rested from his work and took his seat on the throne. That work was to make purification for sins. Why was making purification for sins particularly the

work of the Son? It was because this Jesus, God the Son, was both fully God and fully man. He was the only fully righteous human who could take the sin of other humans on himself and bear the punishment for those sins, since he himself had no sin to be paid for. The only reason he could be fully sinless was because he was also fully God, who could rise from the dead after accomplishing that purpose and return to his rightful throne and sit down having accomplished his work. Remember, I said near the beginning that Jesus divides history. There is before Jesus and then there is after Jesus. Really it is Jesus's death and resurrection that divides history. It was the focus of 2000 years of prophecy, of sacrifices, of words of warning and promise. And everything that happens from now until Christ returns is looking back towards an already accomplished salvation that happened 2000 years ago on that cross. There is nothing left to do for God to bring this world to its end and fully destroy sin and redeem his people. Jesus spoke the final word on the cross. Satan was defeated when Jesus rose from the grave. The object of the faith of everyone from Adam to Abraham to Moses to all the Old Testament saints had now been fully revealed. And today when we put our faith in Jesus Christ, we become "...fellow heirs with Christ..." as [Romans 8:17](#) tells us and "[we will also reign with him...](#)" as [2Timothy 2:12](#) says. Is this the same as Jesus being an heir and king? No. But in Christ as the better word of God, we come to know God in a way that is impossible apart from the Son of God, Jesus Christ. And the access to knowing God through Jesus Christ is to have our sins purified, forgiven. [Romans 3:22](#) tells us this forgiveness, this purity or "[righteousness of God \[comes\] through faith in Jesus Christ for all who believe.](#)" But people look to many different places for salvation all the time. So the writer of Hebrews is only beginning to show us all the things that Jesus is better than as this first opening statement ends with verse 4. **[4 having become as much superior to angels as the name he has inherited is more excellent than theirs.](#)** We will look at Jesus's superiority to the angels in a couple of weeks, but the reason Jesus's name is more excellent than angels is because he is the uncreated Son of God, heir to the universe he created, who rules and reigns over the creatures he died to redeem. As [Acts 4:12](#) tells us "[there is no other name under heaven given among men by which we must be saved.](#)" There are millions and millions of words spoken every day in thousands of languages, but there is only one living Word of God who can purify us from our sins. Are we listening to that Word? Are we trusting in that Word? Are we following that Word? That Word's name is better, because that Word is better, and his name is Jesus. He gave his life so we could be restored to God. And we remember that sacrifice through this meal we call the Lord's Supper, where we take bread that represents his body that was willingly broken and juice for blood that willingly shed for our salvation. I invite you to join us in this meal today if you are follower of Christ who has repented of sin and trusted Christ, and then been obedient in being baptized. While we welcome those who are not members of YIBC to participate, this meal connects us with the local Body of Christ where we should be participating as members. For parents, the best way to show children the importance of this meal is to not allow them to participate when they are not ready. After I pray the Deacons will distribute the bread and cup from the 4 corners of the sanctuary and then we will eat and drink the bread and cup together. Let's pray.